# １．つながりのあるまちづくり

－人権・コミュニティ・協働－

# （1）人権の尊重

## 10 年後のビジョン

誰もがかけがえのない個人として尊重され、お互いの個性や価値観の違いを認め合う相互理解と寛容のもとで、いきいきと生活できる共生社会の実現をめざします。

## 現状と課題

○我が国では、同和問題（部落差別）や、女性、子ども、高齢者、障がいのある人、外国人、性的指向※や性同一性障害※などにかかわる解決すべき人権課題が存在しています。また、ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）※や児童・高齢者への虐待、子どもたちの間でのいじめなどが深刻な社会問題となっています。

○差別や虐待、暴力をなくし、全ての人の人権が守られる社会を築いていくためには、家庭・学校・地域社会・企業など、さまざまな場を通じた人権教育や啓発を推進する必要があります。

○南丹市では、「南丹市人権教育・啓発推進計画」を策定し、計画に基づいた人権講演会や指導者育成などを進め、市全体の人権感覚の高揚を図っています。

○インターネットによる人権侵害やヘイトスピーチ※など、新たな課題が顕在化しており、個別の人権課題に対処した法律が近年施行されるなど、多様化する人権課題に対してさらなる教育・啓発が求められています。

## 目標指標

| 指標名 | 単位 | 現状値 | 目標値 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 5年後 | 10 年後 |
| 人権講演会等における参加者の理解度 | % | 98 | 95 以上 | 95 以上 |
| 地域(集落)における人権研修会等の実施率 | % | 29.1 | 35 | 40 |

※性的指向：人の恋愛・性愛がどういう対象に向かうのかを示す概念であり、具体的には、恋愛・性愛の対象が異性に向かう異性愛（ヘテロセクシュアル）、同性に向かう同性愛（ホモセクシュアル）、男女両方に向かう両性愛（バイセクシュアル）を指す。

※性同一性障害：「からだの性」と「こころの性」が一致しないため、社会生活に支障がある状態をいう。

※ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）：同居関係にある配偶者や内縁関係の間で起こる家庭内暴力のこと。近年では婚姻の有無を問わず、元夫婦や恋人など近親者間に起こる暴力全般を指す場合もある。

※ヘイトスピーチ：特定の対象（人物や集団）に対する敵意や憎悪を、過激な表現を用いて直接に示す言動の総称。

## 施策の方向

### ①　人権感覚の高揚

○市民一人ひとりが人権尊重の理念に関する理解を深めることによって、自分の人権とともに他人の人権を守るという意識を身につけ、自らの課題として主体的に行動していける「人権感覚の豊かな社会の構築」に結びつく人権教育・啓発活動を推進します。

○企業における人権教育や相談体制の確立など、人権を尊重した職場づくりが推進されるよう、企業への啓発活動に努めます。

### ②　学校教育における人権教育の推進

○心身ともに成長過程にある子どものうちから人権意識を持てるよう、保育所や幼稚園、小・中学校において、発達段階に応じた人権教育を進めます。

### ③　人権擁護および教育・啓発体制の充実

○市民の人権教育･啓発活動を支援するとともに、市民がより主体的に活動を展開できるよう、南丹市人権教育・啓発推進協議会などと連携し、人権啓発推進委員をはじめとする人権啓発リーダーの育成を図ります。

○市民相談体制の充実を図るとともに、各種の相談窓口の連携を強化し、課題の解決にあたって適切かつ迅速な対応に努めます。

○判断能力が十分ではない高齢者や障がいのある人などの権利擁護を推進するため、各種施策の普及・促進を図ります。

○市内に居住する外国人に対して、住みにくさの要因を排除するよう努めます。

○福祉の向上や人権啓発のための市民交流の拠点である各文化センターについては、市民ニーズに配慮して機能の充実や円滑な運営、施設の改善などを図ります。

## 市民に期待する取り組み

○身近な生活の中にある人権問題に関心を持ち、問題の解決に主体的にかかわりを持ちましょう。

○地域や職場において人権研修や学習活動を行い、みんなで人権感覚を高めましょう。

## 具体化する部門別計画

○南丹市人権教育・啓発推進計画（第 2 次）（2018～2027 年度）

# （2）男女共同参画社会の推進

## 10 年後のビジョン

男女が性別にかかわらず、一人ひとりの多様な個性、互いの自分らしさを認め合って生活できる社会の実現をめざします。

## 現状と課題

○性別にかかわりなく、一人ひとりが個性を生かし、社会のさまざまな分野に参画することができる男女共同参画社会を実現するため、さまざまな意思決定過程における女性参画の促進や、市民・関係団体に対する情報提供、啓発活動を行う必要があります。
○家庭や地域などでの固定的な性別役割分担意識にとらわれることなく、誰もが男女共同参画について正しく認識できるよう、あらゆる場において広報・啓発をはじめ、教育・学習を進めていく必要があります。
○南丹市では、女性や女性団体の活動が活発に進められていますが、さらに活動の輪を広げていくことが課題となっています。
○2015（平成 27）年 4 月に「南丹市男女共同参画推進条例」を施行し、各審議会などにおける女性の登用拡大を積極的に推進していますが、登用率は今なお低くなっています。
○今後は、あらゆる分野で女性の積極的な参画を促していく必要があります。
○男性と女性が対等なパートナーとしていきいきと活躍できるまちの実現のため、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）※の普及に向けた啓発や支援が必要となっています。

**男女共同参画の状況**

| | 2013 年度 | 2014 年度 | 2015 年度 | 2016 年度 | 2017 年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 審議会等における女性の割合(%) | 12.5 | 25.2 | 23.4 | 22.2 | 21.4 |

資料：人権政策課（4 月 1 日現在）

## 目標指標

| 指標名 | 単位 | 現状値 | 目標値 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 5年後 | 10 年後 |
| 審議会等における女性の割合 | % | 21.4 | 30 | 30 |
| 市役所における女性管理職の割合 | % | 22.9 | 30 以上 | 30 以上 |

※ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）：充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域での私生活においても豊かな生き方が選択・実現できる状態のこと。

## 施策の方向

### ①　男女平等の意識づくりの推進

〇男女共同参画社会の実現の基本は人権の尊重であるという認識のもと、さまざまな広報・研修会の実施などの啓発に努めます。

### ②　男女共同参画の環境づくりの推進

〇男女がともに仕事や家事、育児、介護、地域生活との両立を図ることができるよう、ワーク・ライフ・バランスの普及啓発に努めます。

〇ＤＶ、セクシュアル・ハラスメント※など、女性への暴力や人権侵害の実態把握に努めるとともに、相談窓口の充実を図ります。また、個々の事象の解決に向けた体制を府などと連携して確立するとともに、啓発などによってこれらの根絶をめざします。

〇女性の社会進出や地域での活躍を促すうえで、市民が気軽に集い、情報交換できる場づくりを進めます。

### ③　女性が活躍するまちづくりの推進

〇市内で活動する女性団体の市域の全体交流を促進するために、活動支援の充実に努めます。

〇各種講座での託児サービスの提供など、女性が積極的に社会参加しやすい環境づくりに努めます。

〇各種審議会、委員会などへの女性の登用拡大を積極的に推進します。

## 市民に期待する取り組み

〇男女共同参画社会の実現に向け、協力し活動しましょう。

〇お互いを思いやる気持ちを持ち、家庭での役割を担い合うようにしましょう。

## 具体化する部門別計画

〇南丹市男女共同参画行動計画（2009～2018 年度）

※セクシュアル・ハラスメント：職場や教育現場などで行われる性的ないやがらせや脅迫などの言動。

# （3）地域コミュニティ活動の活性化

## 10 年後のビジョン

地域で暮らす誰もが積極的に地域コミュニティ活動に参加し、連帯感のある元気な地域社会が形成されるまちをめざします。

## 現状と課題

○市民主体のまちづくりを進めるにあたって、自治会などの地域コミュニティは重要な役割が期待されます。また、長い時間をかけて各地域が培ってきた誇りと絆を重視し、地域コミュニティを維持しながら、その活力を生かす地域づくりが必要です。

○市内の全集落のうち「55 歳以上の住民が 50%以上を占める集落」が 7 割以上に達している現状で、急速な高齢化、過疎化の進行により多くの集落で地域活力が低下しています。

○地域コミュニティの維持・活性化のため、それぞれの地域単位、集落単位でのまちづくり活動や地域自治組織※を支援し、「地域でできることは地域で解決する」住民自治の地域づくりを進める必要があります。

## 目標指標

| 指標名 | 単位 | 現状値 | 目標値 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 5年後 | 10 年後 |
| 地域におけるさまざまな活動や、市民による自主的な活動に参加した人の割合＊（「ときどき参加した」を含む） | % | 40.7 | 50 | 60 |

＊市民意識調査による

※地域自治組織：市内の一定の区域を単位として、地域の課題解決に向け地域自らが決め、実行することをめざし、住民自治の強化や住民と行政との協働の推進などを目的とした組織。

## 施策の方向

### ①　地域との協働の推進

○各地域の集落や自治会などとの積極的な対話と連携を図り、協働による各事業の推進に努めます。

○「地域のことは地域で考え、地域でできることは地域で解決する」という住民自治の核となる地域自治組織の設立をめざし、美山地域などで行っている地域振興会制度や他の自治体で導入されている小規模多機能自治制度を検証し、地域特性を十分に踏まえたものとなるよう市民とともに検討を進めます。

### ②　地域づくりへの支援の充実

○地域の実情に応じた自主的、主体的なまちづくり活動を支援するとともに、各地域で行われている各種イベントや事業の活性化を支援します。

○地域コミュニティ活動の拠点となる施設の整備について、市民とともに検討を進めます。

○地域の活性化を図るため、市民と協働した地域での取り組みの支援を行うとともに、集落の維持・活性化の具体的方策を検討し、人的・経済的など多面的な支援を図ります。

## 市民に期待する取り組み

○身近な地域の課題や活動に関心を持ち、自分たちでできることを考え、行動しましょう。

○地域のコミュニティ活動に積極的に参加しましょう。

# （4）協働のまちづくりの推進

## 10 年後のビジョン

市民が主体的にまちづくり活動に参加し、多様な主体がそれぞれ連携しあいながら、創意工夫による協働のまちづくりが実践されるまちをめざします。

## 現状と課題

◯地域の抱える課題は高度化・複雑化しており、地域や行政のみでは解決が困難になってきています。さまざまなスキルを持つ多様な担い手が相互に連携することが、それらの課題を解決に導くことを可能にします。

◯現在、各種計画の策定にあっては審議会や委員会などに市民の参画を得ています。しかし、地方の自立がますます進む今後においては、より質の高いサービスと効率性の両面が求められており、従来の政策決定方法や事業実施手法では、多様性や柔軟性、事業の効率性などで不十分な面があることも懸念されます。

◯南丹市では、多様な担い手をつなげる中間支援組織として「南丹市まちづくりデザインセンター」を設置し、南丹市を中心に活動しているＮＰＯやボランティア団体などを総合的に支援するとともに、市民活動に関心のある人やこれから活動を始めたい人への情報発信、活動の機会を提供することで、地域課題の解決や地域活性化を図っています。

◯南丹市には、明治国際医療大学や京都医療科学大学、京都美術工芸大学、京都建築大学校、京都伝統工芸大学校、公立南丹看護専門学校、佛教大学園部キャンパスといった多くの高等教育機関が立地しており、3,000 人を超える学生が行き交う教育のまちとしての特徴があります。市内に居住している学生も多く、地域の活性化の一翼を担っています。現在は各大学などと連携して、地域イベントへの参加などの事業を進めています。

◯大学をはじめとする高等教育機関との連携については、教育分野のみならず、地域活動や地場産業への支援など、多様な分野で連携を深める必要があります。

## 目標指標

| 指標名 | 単位 | 現状値 | 目標値 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 5年後 | 10 年後 |
| 中間支援組織への相談件数 | 件 | 615 | 750 | 875 |

## 施策の方向

### ①　市民主体のまちづくり活動の推進

○まちづくりに貢献するＮＰＯや地域住民が主体となって行う活動を積極的に支援します。

○子育て、福祉、文化・スポーツ、産業など、まちづくりにかかわる多分野で経験、知識や技能を発揮し、活躍できるＮＰＯ、ボランティア団体などまちづくりの多様な担い手の育成に努めます。

○生涯学習や地域活動、福祉活動、経済活動など、さまざまな活動を通じた市民交流を促進します。

○市民主体のまちづくり活動を支援するため、公募・審査を経た助成などを実施します。

○多くの市民の意見を反映した施策を推進するため、各種審議会などにおける委員の一般公募を推進します。また、条例制定や計画策定にあたっては、必要に応じてパブリックコメントを実施し、より多くの市民参画が得られるよう工夫を図ります。

### ②　多様な主体との協働の促進

○市民団体、企業、学校、地域などと行政を中間的な立場でサポートし、さまざまな取り組みを効果的に結びつける中間支援の取り組みを推進します。

○企業のまちづくり、まちおこしへの参画をさらに進めるため、商工会などを通じた官民一体の協働の取り組みや協議の機会を増やします。

○企業や大学などと行政の連携を円滑に進めるための、コーディネートを行う連携支援組織の設置を図ります。

○産学官協働の事業推進を継続的に進めながら、発展的にまちづくりの主要事業として育てるために定期的な連携会議を設置します。

### ③　高等教育機関との連携

○地域と各高等教育機関が、まちづくりにおいて交流する仕組みや活動に、行政も積極的にかかわり、互いに開かれた教育機関・開かれた地域づくりを支援します。

○大学などの教育機能を地域に開かれたものとするため、市民を対象とした大学内外での公開講座の開催に協力します。また、大学などの教員や学生が地域に出向き、市民の学習活動や健康づくり活動などを支援する取り組みを促します。

○大学などの施設・設備が地域へ柔軟に開放されるよう促します。

## 市民に期待する取り組み

○自分の興味や経験に応じて、まちづくり活動を積極的に進めましょう。

○経済活動や生涯学習活動において大学などとの連携を積極的に進めましょう。

○公募委員へ積極的に応募し、各事業の評価を行う場に参加しましょう。

○アンケートやパブリックコメントへ意見を寄せましょう。

# （５）交流活動の推進

## 10 年後のビジョン

市内で日本人と外国人が相互に理解し合って暮らす、また、国内外のさまざまな地域との交流が盛んに行われるまちをめざします。

## 現状と課題

○交流の拡大が人を集め、文化を育み、まちに活力と魅力をもたらします。そのため、経済やスポーツ、文化・芸術など、あらゆる分野を通じて多面的な交流を推進していくことが必要です。

○南丹市は、国内外の都市や人々との交流事業も多彩に推進しています。また、美山地域では小学生を対象とした山村留学が行われています。今後も、南丹市を愛する多くの人々との交流を大切にしていくことが求められています。

○市内に住む外国人が地域の一員として安心して暮らせるよう、南丹市では、さまざまな言語の広報や生活ガイドを発行するなど、共生に向けた環境づくりを進めています。

○今後も、市民主体の国際交流活動をさらに促進するとともに、市民一人ひとりが国際的な視野に立ち、互いに人権や文化を認め、尊重しあう多文化共生の地域づくりが求められています。

## 目標指標

| 指標名 | 単位 | 現状値 | 目標値 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 5年後 | 10 年後 |
| 南丹市国際交流協会の会員数 | 人 | 80 | 100 | 120 |
| 南丹市国際交流協会の事業数 | 件 | 23 | 25 | 27 |

## 施策の方向

### ①　地域間交流の推進

○豊かな自然環境を生かした山村留学を継続し、都市と農村の交流による地域の活性化を図るとともに、多くの子どもたちが、南丹市を第二のふるさととして大切にしてもらえるまちづくりを進めます。

### ②　国際交流の推進

○国際交流を進め、南丹市の自然や文化、暮らしを愛する世界の人々と国境を越えてふれあう、多彩な交流のあるまちづくりを進めます。また、市民の国際理解を深めるため、国際交流に関するワークショップや語学教室を開催します。

○市民による国際交流組織の支援を図ります。

○在住外国人に対し、学習環境や相談事業・情報提供の充実に努めるなど、快適に暮らせる生活環境の整備に努めます。

### ③　スポーツ・文化・芸術による交流推進

○地域資源を活用したスポーツイベントや地域で育んできた文化・芸術などを通じて、国内外のさまざまな地域や人々との交流が活性化するよう支援します。

## 市民に期待する取り組み

○国際理解への認識を高め、進んで国際交流活動に参加しましょう。

## 市民ワークショップから出た市民の主な意見・アイデア

まちづくりの基本方針「１．つながりのあるまちづくり」に関連した、市民ワークショップで市民から出された主な意見やアイデアを掲載します。

### １．つながりのあるまちづくり【人権・コミュニティ・協働】

| 基本施策 | 主な意見･アイデア |
|---|---|
| 地域コミュニティ活動の活性化 | ○あいさつは日常生活の潤滑油である。全市を挙げてのあいさつ運動を実施する。<br>○住んでいるところを「好き」と言えるまちにする。<br>○田舎でも地域の役員をやりたくない人が増えてきている。<br>○高齢化が進む中、自治会組織をスリム化し、役員の負担を少なくする（行政からの配布物など）。<br>○廃校になった小学校の跡地を活用し、宅配の流通センターなどを設置する。<br>○40 歳でセカンド成人式を実施するなど、南丹市を離れた人がまた戻ってくる仕組みをつくる。<br>○Ｕターン者やＩターン者が増えて、元気なコミュニティになってほしい。<br>○地域外に出て行った人たちにも地域行事の参加を呼びかける。<br>○区（自治会）対抗のカラオケ大会を開催する。 |
| 協働のまちづくりの推進 | ○南丹市はＮＰＯ法人も多く、また、おもしろい人やアツい人もたくさんいる。<br>○市民活動団体間の交流会などがあれば、もっと連携できる。<br>○「南丹シニア大学」を開校し、市内の大学や専門学校の先生に講師になってもらう。<br>○大学間の連携をつくっていくことも必要である。<br>○大学など、海外と提携しているような学校は、南丹市と海外をつなぐ役をさらに担ってほしい。 |
| 交流活動の推進 | ○南丹市の子どもたちが市内他地域のことが学べるように、教育民泊を実施する。<br>○地域のなかで学ぶことや学べるところがたくさんある。<br>○南丹市在住の外国人と交流できる機会をつくる。<br>○異文化交流（日本人も外国人も）できる人づくりが大切である。<br>○アートを通じた海外との交流を図る。<br>○広域での交流が促進されるように、もっとＩＣカード乗車券が利用できるようにする。 |